

2026年11月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2026年10月9日
東

上場会社名 株式会社ティムコ 上場取引所
コード番号 7501 URL <https://www.tiemco.co.jp>
代表者（役職名） 代表取締役社長（氏名） 酒井 誠一
問合せ先責任者（役職名） 取締役管理部長（氏名） 荻原 浩二 TEL 03-5600-0122
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無 : 無
決算説明会開催の有無 : 無

（百万円未満切捨て）

1. 2026年11月期第3四半期の業績（2025年12月1日～2026年8月31日）

（1）経営成績（累計）（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年11月期第3四半期	2,613	12.2	△68	—	△58	—	△86	—
2025年11月期第3四半期	2,329	△3.5	△88	—	△80	—	△102	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年11月期第3四半期	△34.76	—
2025年11月期第3四半期	△41.37	—

（2）財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2026年11月期第3四半期	5,057	4,243	83.9	1,713.62
2025年11月期	5,463	4,366	79.9	1,763.06

（参考）自己資本 2026年11月期第3四半期 4,243百万円 2025年11月期 4,366百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年11月期	—	0.00	—	12.00	12.00
2026年11月期	—	0.00	—		
2026年11月期（予想）				12.00	12.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2026年11月期の業績予想（2025年12月1日～2026年11月30日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,502	8.8	△75	—	△63	—	△103	—	△41.59

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2026年11月期3Q	3,339,995株	2025年11月期	3,339,995株
2026年11月期3Q	863,588株	2025年11月期	863,549株
2026年11月期3Q	2,476,416株	2025年11月期3Q	2,476,498株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数（四半期累計）

※ 添付される四半期財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等に関する記述は、当社が現在入手可能な情報に基づき作成したもので、実際の業績等は今後様々な要因によって大きく異なる場合があります。なお、業績見通し等に関する事項は、添付資料3ページ「(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
第3四半期累計期間	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(セグメント情報等)	6
(四半期キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	6

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間(自2025年12月1日至2026年8月31日)における日本経済は、雇用・所得環境の改善を背景とした各種政策の効果なども影響し、景気は緩やかな回復基調にあるものの、物価上昇や中東をはじめとする地政学リスクなど先行き不透明な状況が続きました。

当社の関わるアウトドア関連産業では、地域により6月以降の猛暑や記録的な豪雨に加え、近年増加している熊の出没の影響を受け一部で溪流釣りや登山を控える傾向が進むなど、アウトドアアクティビティにとって全般に厳しい状況に見舞われました。釣用品市場は、国内においては物価高などによる消費者の節約志向の影響を受け、高価格帯の商品を中心に苦戦した一方、輸出においては円安の影響もあり比較的好調に推移いたしました。

また、アウトドア衣料品市場においては、期初において防寒衣料を中心に販売が好調に推移した一方、春夏物については、透湿防水生地の高騰による販売価格の上昇などが影響し、ジャケット類を中心とした一部の春物衣料の販売が苦戦し、市場全体として在庫の圧縮を目的とした値引き販売の比率が高まりました。

このような状況の中、当社では収益確保に向けた商品の販売強化に取り組んだ結果、当第3四半期累計期間の売上高は26億13百万円(前年同期比12.2%増)となりました。その一方で、円安や仕入原価の上昇率が高かったことに加え一部滞留商品の値引き販売などが影響し、売上総利益率が低下しました。また、人件費などの増加に加え8月25日に臨時株主総会を開催したことなどによる販売費及び一般管理費の増加の影響を受け、営業損失は68百万円(前年同期間 営業損失88百万円)、経常損失は58百万円(前年同期間 経常損失80百万円)となりました。さらに、特別損失として公開買付提案対応費用14百万円を計上したことなどが影響し、四半期純損失は86百万円(前年同期間四半期純損失1億2百万円)となりました。

セグメントの業績を示すと、次の通りであります。

(フィッシング事業)

フィッシング事業に関しては、国内販売においては物価高などによる消費者の節約志向の影響を受け、高価格帯の商品を中心に依然として厳しい状況が続いております。その一方、輸出においては今期より社内体制を変更して販売を強化した効果が出てきていることに加え、円安の後押しもあり好調に推移いたしました。

フライ用品については、輸出を中心にフライフック(釣り針)やフライタイイングツール(毛鉤を巻くための道具)などが好調に推移したものの、一部のフロート(毛鉤の浮力材)などに欠品が生じ販売は微増に留まりました。

その一方で、ルアー用品においては高価格帯のロッド(釣竿)の販売は苦戦したものの、ルアー(擬似餌)の販売は国内、輸出ともに好調に推移いたしました。

また、昨年5月に発売開始した国産の熊撃退スプレーの販売は引き続き好調に推移しました。

その結果、当第3四半期累計期間におけるフィッシング事業の売上高は、8億16百万円(前年同期比22.3%増)となりました。また、セグメント利益(営業利益)は35百万円(前年同期比45.6%増)となりました。

(アウトドア事業)

アウトドア事業に関しては、期初に冬季の寒気の影響により防寒衣料や防寒小物の販売が順調に推移いたしました。また、春夏物に関しては、女性物衣料や帽子などのアクセサリ類など一部の商品の販売が苦戦したものの、フィッシングギア(釣用衣料)やシャツ、カットソーなどを中心に販売が好調に推移しました。

その結果、当第3四半期累計期間におけるアウトドア事業の売上高は17億83百万円(前年同期比8.3%増)となりました。また、セグメント利益(営業利益)は41百万円(前年同期比96.5%増)となりました。

(その他)

その他の主な内容は、不動産賃貸収入売上であります。当第3四半期累計期間に関しては、賃貸面積の減少によりその他売上高は13百万円(前年同期比12.0%減)となりました。また、セグメント利益(営業利益)は7百万円(前年同期比17.5%減)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

資産、負債、純資産の状況

(資産)

当第3四半期会計期間末の資産は、前事業年度末に比べ4億5百万円減少し50億57百万円となりました。

流動資産は、電子記録債権の増加51百万円や商品の増加1億75百万円などの一方、現金及び預金の減少3億68百万円や受取手形及び売掛金の減少2億27百万円などの影響により、前事業年度末に比べ3億69百万円減少し、33億25百万円となりました。

固定資産は、建物の減少26百万円や投資有価証券の減少7百万円などの影響により、前事業年度末に比べ36百万円減少し、17億32百万円となりました。

(負債)

当第3四半期会計期間末の負債は、前事業年度末に比べ2億83百万円減少し8億14百万円となりました。

流動負債は、支払手形及び買掛金の増加1億81百万円などの一方で、電子記録債務の減少4億21百万円や未払法人税等の減少11百万円、その他に含まれる未払費用の減少22百万円などの影響により、前事業年度末に比べ2億78百万円減少し、5億73百万円となりました。

固定負債は、その他に含まれる長期未払金の減少2百万円や資産除去債務の減少3百万円などの影響により、前事業年度末に比べ4百万円減少し2億40百万円となりました。

(純資産)

当第3四半期会計期間末の純資産は、前事業年度末に比べ1億22百万円減少し、42億43百万円となりました。

これは主に、前事業年度決算の配当支出によるその他資本剰余金の減少29百万円や四半期純損失86百万円、その他有価証券評価差額金の減少6百万円などによるものです。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の業績予想につきましては、本日公表の「2026年11月期通期業績予想の公表に関するお知らせ」に詳細を記載しておりますが、第3四半期累計期間(自2025年12月1日至2026年8月31日)において、売上高は一定の回復が見られたものの当初の計画ほどの増加には至らず、売上総利益率が低下したこと、人件費などの販売費及び一般管理費が増加したことや臨時株主総会の開催に関わる費用、特別損失として計上した公開買付提案対応費用などの影響による当初計画との乖離に加え、9月1日付で中国子会社「厦門特美客戸外科技有限公司」を設立し、10月下旬に開始する予定の中国及び欧州に向けたEC販売に対する初期費用が先行して発生することが見込まれております。

これらにより、2026年11月期の通期業績予想は、売上高35億2百万円、営業損失75百万円、経常損失63百万円、当期純損失1億3百万円の計上を見込んでおります。

なお、上記の業績予想については、当社が現在入手可能な情報に基づき作成したもので、実際の業績は今後様々な要因によって大きく異なる可能性があります。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2025年11月30日)	当第3四半期会計期間 (2026年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,188,850	820,683
受取手形及び売掛金	615,204	387,696
電子記録債権	73,998	125,071
有価証券	99,333	99,951
商品	1,624,324	1,799,360
その他	94,647	93,607
貸倒引当金	△970	△559
流動資産合計	3,695,388	3,325,812
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	407,842	381,612
土地	653,376	653,376
その他（純額）	11,519	16,798
有形固定資産合計	1,072,738	1,051,787
無形固定資産	35,988	30,570
投資その他の資産		
投資有価証券	592,704	585,618
その他	66,825	64,072
投資その他の資産合計	659,529	649,690
固定資産合計	1,768,256	1,732,047
資産合計	5,463,645	5,057,859
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	62,094	243,828
電子記録債務	532,093	110,670
未払法人税等	28,753	17,386
賞与引当金	1,300	9,016
その他	228,176	192,941
流動負債合計	852,417	573,843
固定負債		
退職給付引当金	185,099	185,540
その他	59,999	54,865
固定負債合計	245,098	240,406
負債合計	1,097,516	814,249
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,079,998	1,079,998
資本剰余金	3,804,983	3,775,266
利益剰余金	△32,960	△119,034
自己株式	△478,135	△478,205
株主資本合計	4,373,886	4,258,026
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△7,758	△14,415
評価・換算差額等合計	△7,758	△14,415
純資産合計	4,366,128	4,243,610
負債純資産合計	5,463,645	5,057,859

(2) 四半期損益計算書

第3四半期累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自 2024年12月1日 至 2025年8月31日)	当第3四半期累計期間 (自 2025年12月1日 至 2026年8月31日)
売上高	2,329,342	2,613,243
売上原価	1,265,181	1,464,060
売上総利益	1,064,161	1,149,183
販売費及び一般管理費	1,152,194	1,217,442
営業損失(△)	△88,033	△68,259
営業外収益		
受取利息	5,297	6,901
為替差益	1,761	2,526
その他	356	327
営業外収益合計	7,415	9,754
営業外費用		
その他	44	70
営業外費用合計	44	70
経常損失(△)	△80,663	△58,575
特別利益		
固定資産売却益	—	219
特別利益合計	—	219
特別損失		
固定資産除却損	27	0
公開買付提案対応費用	—	14,158
特別損失合計	27	14,158
税引前四半期純損失(△)	△80,690	△72,514
法人税、住民税及び事業税	10,484	10,701
法人税等調整額	11,283	2,857
法人税等合計	21,767	13,559
四半期純損失(△)	△102,458	△86,074

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

(セグメント情報)

I 前第3四半期累計期間(自 2024年12月1日 至 2025年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	調整額 (注) 2	合計 (注) 3
	フィッシング 事業	アウトドア 事業	計			
売上高						
外部顧客への売上高	667,510	1,646,270	2,313,781	15,561	—	2,329,342
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	667,510	1,646,270	2,313,781	15,561	—	2,329,342
セグメント利益又は損失(△)	24,561	21,061	45,622	9,240	△142,897	△88,033

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産賃貸事業であります。

2. セグメント利益の調整額△142,897千円は、各セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は主に管理部門の一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期損益計算書の営業損失と調整を行っています。

II 当第3四半期累計期間(自 2025年12月1日 至 2026年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	調整額 (注) 2	合計 (注) 3
	フィッシング 事業	アウトドア 事業	計			
売上高						
外部顧客への売上高	816,086	1,783,461	2,599,548	13,695	—	2,613,243
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	816,086	1,783,461	2,599,548	13,695	—	2,613,243
セグメント利益又は損失(△)	35,754	41,389	77,144	7,620	△153,024	△68,259

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産賃貸事業であります。

2. セグメント利益の調整額△153,024千円は、各セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は主に管理部門の一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期損益計算書の営業損失と調整を行っています。

(四半期キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期累計期間 (自 2024年12月1日 至 2025年8月31日)	当第3四半期累計期間 (自 2025年12月1日 至 2026年8月31日)
減価償却費	46,925千円	40,711千円